

**広葉樹植栽
での
新たな森林再生**

数年前から、山林の皆伐後の再生林時に、「スギやヒノキではなく広葉樹を植えてみたい」という声を聞くようになりました。昨年度、大紀町崎の山林所有者である小倉孝昭さんの冷水地内において、クルミやカシワなど、広葉樹植栽の現地を完成させる事ができました。今回、その植栽に至るまでの経緯や、未来への思いをお伺い出来たので紹介させていただきます。



3月に植栽したクヌギの苗木と小倉さん

『未来の山と森を考える』

大紀町 崎 小倉孝昭

① 山に対する思い

戦前の柏崎笠木の山々は、春は桜、秋は紅葉と、とても美しかったと聞いています。現在では、杉・桧などの年中見栄えのしない風景となっています。私の信条は自然と人との共存共栄、全てにおいて「三方良し」を是としていることから、「森林良し・動植物良し・人良し」を実践していきたいと思っています。

② 現状の改革と未来の山林

現在多くは人工林であり、成長するにつれ手入れが欠かせないのも現実です。山主や森林組合で手入れをしている所は問題ないですが、後継者がいなかったり、自分の山の所在も解らず放棄した状態であればどうなるのか？ 山も土地も荒れ、保全・保水機能が崩れ、大雨などによる土砂崩れなど悪影響が考えられます。私の山も今後の管理が未知数であるなら、今の内に落葉広葉樹林にすれば自然環境、また水質保全等に寄与できるのではないかと、三種類の苗木を選定し、試験的に1.8haの植栽を予定しています。



カシワの苗木



クルミの苗木

③ 個別種の経済・経営的視点の考察

下記の三種類の樹種の選定に当たっては、スギ・ヒノキに代わっての将来性はどうか、また、土地や風土に合っているかを考慮しました。まず一種はクヌギです。椎茸の原木であり、暖炉のマキ・鯉節のいぶし等に使用され、数十年で伐採した後再芽します。二種めはカシワです。耐暑性・耐病性が強く、日陰・潮風でも育てやすく、建築資材・家具材にも使われます。また、柏餅の葉の大半は輸入なので、安全な国内産へのニーズが高いと思われる。三種めのクルミは耐寒・耐暑性が強く病気になりにくい落葉樹です。西洋では「ウォールナット」と呼ばれ、衝撃に強く狂いが少なく加工性に優れているため高級家具材に使われます。チップは燻製作りに、実はビタミン・ミネラルが豊富で健康志向の現代に適しています。

皆伐後の林地へ、上記の特性を持った植栽を行うことで、収穫サイクルが短く、収益性の高い仕組みを作ります。また年数がたてば用材としての販売も可能となり、調査・研究も含め、この取組みが将来に繋がるのではないかと思います。スギ・ヒノキの需要減少と我々森林所有者の投資意欲の低下を上げるために、お金になる落葉・広葉樹を植え「森林の有効活用」「新たな産業の創出」「本来の自然に近い山林活用」等を実践していく夢を少し楽しみながら歩んでいきたいと思ひます。

地区懇談会 結果報告

H29年7月5日(大宮)・6日(大内山)・11日(紀勢)、3地区において開催致しました懇談会では、皆様から貴重なご意見、ご要望を頂きありがとうございました。主な内容は以下のとおりです。

Q 県の「主伐・再生林低コスト化」の説明内容は良いことだけで、零細な山林所有者は不可能です。町内では急峻な土地に植林された木が50～60年生になっており、主伐した場合、再び植林を進めるのか、又、進めないのであれば保水林ということかどうか。これからの林業のあり方をお聞かせ下さい。

の提出が必要で、1ha以上の山林においては、知事に対して「林地開発許可申請」の提出が必要となります。(町回答)



(大宮地区)

A 再生林の低密度化に関してはA材は見込めません。これはあくまでも参考事例で、コスト削減しないと利益が見込めないということで紹介をさせていただきました。また、需要の拡大についてもバイオマス施設や合板工場の進出があり、それによって素材生産も増え、主伐を行い、そのあと植栽をしていく必要があります。植栽が難しいのであれば間伐という形になります。新たな需要が増えていますが、将来、林業がどうなるかは明確にお答えはできません。(県回答)

Q 今後、中国や東南アジアの木材需要が経済成長と共に増えると思いますが、四日市に貯木場を持つとか、海外輸出についてどのように考えていますか？

A 現在、(株)インベスと提携して韓国へヒノキ材の輸出を行っています。昨年実績は300mでした。貯木場に関しては、四日市港に日本トランスシティ(株)が貯木場を所有していますのでそちらを利用しています。中国への輸出については、燻蒸という害虫駆除や殺菌の行為が必要で費用がかさみ、日本より材価が下がってしまいます。しかし、昨年、韓国への現地研修で中国・韓国共に大径木を求めているということなので、今後、有利な展開を考えていきたいです。(森林組合回答)

Q 町の借地で山林を所有している森林組合では、売却できない、又、伐採しても赤字というのが現状です。借地山の周りの山林とまとめれば、大紀森林組合で作業道開設等が可能ですか。少しでも利益ができれば次の世代に残せ、植栽もできると思うのですが。

A 場所等が分かりましたら、集約化施策に該当して作業道が開設できるかどうかもわかりますし、そのあと買取りが可能かの判断もできますので、後日ご相談させていただきます。(森林組合回答)

Q 伐採後、スギ・ヒノキを植栽しているが、獣害の事を考えて、広葉樹植栽の方向性はないのですか。鹿との共存共栄がベストなのではないですか。

A 獣害対策は、鹿を捕獲する事で対策をしています。昨年も大紀地域において、たくさん鹿を獲って頂いています。実のなる木を植える事による獣害対策も今まで行ってきまがうまくいかず、続かないのが現状です。(県回答)

Q 山林にソーラー(太陽光発電)が設置されているのを見かけますが、制度上問題はないのですか？

A 1ha未満の山林においては許可等の必要はありませんが、市町村長に対して「伐採及び伐採後の造林の届出」



チーム大紀：西山真・中井一輝・西晋矢



3人の技術を繋がる「輪切りリレー」

スピードと繊細な技術が必要な「枝払い」

みえチェーンソー技術競技大会

平成29年8月26日菰野町やすらぎ荘にて、第3回みえチェーンソー技術競技大会が県下森林組合7チーム21人参加のもと開催されました。この大会は、県内の林業従事者の技術と安全の向上を目指すことが目的で、①丸太合せ輪切り ②輪切りリレー ③枝払いの3種目で、速さ、正確さ、安全性を審査する競技会です。

前年度に重大災害を起こしたことで、大紀森林組合はこの大会に絶対「優勝」の強い気持ちで臨みました。若い出場選手たちは、そのプレッシャーに打ち勝ち、みごと優勝し、技術・精神の両面で更なる成長を遂げることができました。今後の仕事においても、この経験は必ずプラスになるものと信じています。

林産流通課長(チーム指導) 柳田圭一

みえチェーンソー技術競技大会歴代参加チーム

- 26.8.31(美杉町)優勝(小山正洋・谷口有希・大西祐太郎)
- 27.10.24(鈴鹿市)優勝(片岡淳也・福山成宣・西山真)
- 29.8.26(菰野町)優勝(中井一輝・西山真・西晋矢)

第34号

大紀森林組合だより

平成29年9月発行



野原に
百年生ヒノキの伐倒作業

表紙 中谷よう子さん

- もくじ
- 就任あいさつ・組織体制・新入職員
 - 災害緩衝林整備事業を活用した取組み
 - 広葉樹植栽での森林再生(小倉孝昭さん)
 - 地区懇談会報告・チェーンソー競技大会

三重県度会郡大紀町崎 239-2

TEL. 0598-74-0224
FAX. 0598-74-0379

業務 E-Mail taikisin @ma.mctv.ne.jp
総務 E-Mail taikisom @ma.mctv.ne.jp

組合長就任のごあいさつ



組合長就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
この度、山添組合長の後任として、理事会の推挙により代表理事組合長に就任致しました。理事・副組合長を26年勤めさせて頂きましたが、責任の重さの違いを痛感しております。浅学非才ではありますが、今まで林業・木材流通で学んだ事を生かし、精一杯職務に取り組んで参ります。皆様のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

ご承知のように、森林・林業は長期にわたり不透明感が続いており、バイオマス・合板材の需要はあるものの、建築材の需要の減少による木材価格の低迷、山林の不明確境界の急増、森林所有者の経営意欲の低下等、解決しなければならない課題が山積しております。

当組合におきましても、計画的に作業道を整備し、高性能林業機械等の導入により森林所有者に少しでも多くの利益を還元できればと考えております。また、地域の皆様の多様なニーズに応えながら、将来にわたっては森林資源を適切に利用することにより健全な環境が受け継がれるよう積極的に取り組んでいく所存です。

皆様のご理解とご協力をお願いいたしまして就任のご挨拶とさせていただきます。

代表理事組合長 梅田利幸

組織体制 H29年6月より

代表理事組合長 梅田利幸
理事 水野訓行
理事 河合浩平
理事 出口眞一郎
理事 井上文雄
職員理事 米倉敦也
監事 村田幸司

副組合長理事 大内結
理事 生駒喬
理事 谷口道治
理事 出馬喜勝
理事 喜畑康之
代表監事 大喜多真也
監事 大内錦司

新入職員紹介

(S55年生まれ) 西橋太治

田舎暮らしに憧れて神奈川県から移住してきた僕ですが、出会いと縁に恵まれ、28年春から大紀森林組合で働かせてもらっています。林業に初めて携わり、測量・調査から伐倒・運搬など仕事内容の幅の広さを知りました。また、想像より危険を伴う職業であることも認識しました。けれど身体を使う仕事は身の危険はつきもの、就かせてもらった地元の森林組合の力になれるよう、先輩に学び、後輩に教え、皆で心を合わせ力をつけていきたいと思っております。「自分の身は自分で守る、今できる事を誠実にやる、人と助け合う」をモットーに。



大谷圭佑 (H10年生まれ・右側)

29年4月、大紀森林組合に入社した大谷圭佑です。僕は2日目のオリエンテーションで、林産流通課が崎の現場で伐採する姿を見て一目惚れをしました。それまでは木を伐るのは危ない作業とは思っていませんでしたが、それを見た瞬間、「自分も木を伐りたい!!」と思いました。今でもその先輩の姿は頭に残っています。そして僕はその先輩と一緒に仕事をしたい。一緒に木を伐りたいと思っ頑張っています。今、僕の中でその先輩は憧れの人です。早く追いつけるよう、そしていつか絶対に越えて立派な山師になりたいです。

大紀森林組合の「災害緩衝林整備事業」を活用した取組み

「災害緩衝林整備事業」とは「災害に強い森林づくり」を目指した事業です。

平成26年4月1日から「みえ森と緑の県民税」が導入され、その税を活用した対策の中に「土砂や流木を出さない森林づくり」があります。三重県による「災害緩衝林整備事業」を実施することにより、近年多発している集中豪雨等による被害の低減を目指すと共に、森林の多面的機能の向上にむけた取組みが行なわれています。

事業の仕組みと流れ

1.対象となる事業地

県が選定した「崩壊土砂流出危険地区」の内、①～③の溪流沿いの森林が対象となります。

- ① 溪流内に流出する恐れのある危険木が存在
- ② 間伐不足で過密小径な森林
- ③ 下層植生がみられず表土が流出する恐れのある森林



2.事業の説明

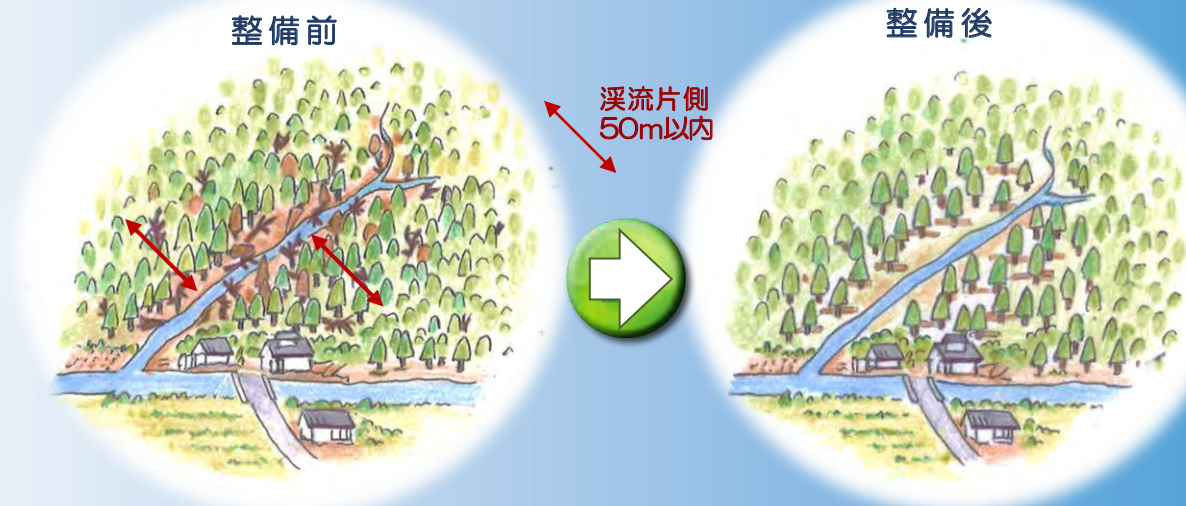
県が地元説明会または戸別訪問等により事業の説明を行います。

3.事業区域の確認

県が①現地踏査を行い、②実施区域を確定し、③危険木の除去数量及び調整伐の必要性等を調査します。

4.事業の実施

県が発注する森林整備委託契約により契約者を決定し、当組合が危険木の除去や調整木の伐採を行い、高性能林業機械やポータブルウインチを使って現場外に搬出し、流木災害等を軽減するための整備を行います。



大紀森林組合の整備実績 (H26～28年度)

地区	整備現地	所有者数	面積	危険木等
大宮地区	2現地 藤ヶ谷・大峰	46名	29.44ha	96.75 t
紀勢地区	5現地 羽下谷・中谷・横谷 大平・注連小路	71名	70.05ha	580.33 t
大内山地区	5現地 池ノ谷越・奥唐子 栗ヶ谷・名古屋	46名	86.32ha	249.40 t

実績



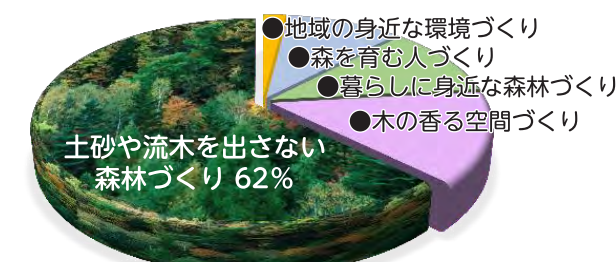
大内山奥唐子



大内山名古屋



三重県下での県民税の実績 (H26～28)



多数の方々のご理解とご協力により、当事業を活用した森林整備を実施させて頂いています。流木の発生や土砂の流出を抑制する「防災・減災」に直結した事業であるため、森林所有者や地域の方々にご理解とご協力を頂いています。

異常気象による豪雨等、未曾有の自然災害の危険が高まっている中、今後も地域の安心、安全に繋がる森林整備を推進してまいります。

今後の方向